



いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会

翔べ 羽ばたけ そして未来へ

9 月 28 日、笠松運動公園陸上競技場で茨城国体の総合開会式が行われた。茨城県で国体が開催されるのは 45 年ぶりとなる。大会の愛称「いきいき茨城ゆめ国体」には国体に参加するすべての人が活気にあふれ、いきいきと活躍できる夢のあるスポーツの祭典のすばらしさを感じてほしい、という想いが込められている。

令和初の国体開幕

式典では、47 都道府県の選手団約 4 千人が北海道を先頭に入場した。最後に本県の選手団約 9 百人が入場すると、たちまち大きな拍手と歓声が沸き起こった。選手団が整列し終える、大井川和彦知事が「全員に夢や感動を与え、未来への飛躍につながる素晴らしい大会となることを祈念する。」と開会宣言をした。また、天皇陛下は「茨城県で国民体育大会が開催されるのは、昭和 49 年以来 45 年ぶりのこととなりますが、ここに集う選手の皆様さんには、日頃の練習の成果を十分に発揮して、大いに活躍していただくとともに、お互いの友情を育み、地元茨城県民の皆さんとの交流を深められるよう願っております。また、この大会に参加する皆さんの中から、来年の東京オリンピックにおいて活躍す



堂々と入場する茨城選手団

る選手が数多く誕生することを期待しております。」と即位後初の国体でお言葉を述べた。前回の茨城国体では見事、天皇杯・皇后杯を獲得することができた。今大会も獲得できるよう期待が寄せられる。

圧巻の式典前演技

来場者をおもてなし

式典前演技「いばらき風土記」ここから、未来が広がる」では、茨城県のさまざまな紹介する演技自体を新たな風土記としてとらえ、演技は 4 章で構成されている。序章は『遊び』。ストーリーテラーの渡辺裕之さんの「これからみなさんとともに、未来へとつながる新たな風土記を紡いでいきたいと思っています。」という言葉で始まり、茨城県を代表するマーチングバンドの演奏と華麗なフラッグパフォーマンスが繰り広げられた。続く第一章は『悠久の歴史と文化』と題し、渡辺さんの語りに合わせて未来へ伝承していくべき笠間焼などの伝統工芸品や日本最大の藩校として



豊かな自然や恵みを表現している第 2 章

知られる弘道館などの歴史スポットが大型映像で流れた。また、茨城県の歴史と文化を代表する剣舞を披露した。第二章は『豊かな自然ときらめく大地』。この章では 3 つに分かれたダンスパートで茨城の美しい風景を表現した。ピンクの花は水戸の梅、青い花はネモフィラをイメージしている。誕生した生命の足取りや大地の変動を表現した。究人たちから受け継いできた歴史と伝統が豊かな未来を創り

出す先端技術と溶け合い新たな息吹となつてこの地に満ち満ちています。みなさんの記憶とともに未来に向かって羽ばたいていく茨城をぜひ感じてください。」の言葉でラストとなる第三章『未来への躍動』が壮大な演技を魅せた。茨城国体のテーマソングと総勢 1600 人によるダンスが融合しラストにふさわしかった。歌の最後には観客が色とりどりのハリセンを鳴らし、一体となって第三章を締めくくった。



壮大なラストパフォーマンス